

SDGs 建築ガイドおよび一覧表の発行・公開にあたって



近年世界中で官民・業界を問わず大きな関心を集めている<17の国連SDGs (Sustainable Development Goals: 以下同様)>は、より持続可能な未来を実現するために、国連を構成する人々の切なる願いを端的に記述したものです。



これらの目標は、全ての人々にとって、より良く、より持続可能な未来を達成するために必要な取組課題を簡明に表現しています。そして、貧困、不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和、正義などといった、私達が現在直面するグローバルな問題に、真摯に取り組むことを求めています。それぞれの目標は互いに関連づけられ、誰一人として取り残されずに各目標を2030年までに達成できるよう、全世界が協働して行動に注力することを訴えています。



広義の建築環境（建築、まち、ランドスケープ、都市）と、そのプランニング、設計、デザインは、各目標と関わり、相互に影響し合います。そして本書の編集にあたり、単に望ましいレベルや未来の可能性の抽象的な記述に留まらず、世界画地で実現した住宅を初め、建物、施設群、造園、都市を掲載し、その具体的な取組を紹介することにしました。類似した建築的な答えは既に至る所に存在し、持続可能なコミュニティや生活の質の向上に貢献しています。それでも、この分野はエネルギーや天然資源を大量に消費し、その建て方や使い方によっては不平等をさらに助長し、健康を害する大きなリスクを内在しています。



以上に鑑み、デンマーク王立美術アカデミー建築学部デザイン・保存学科建築技術研究所(KADK)、デンマーク建築家協会(AAD)、国際建築家連盟(UIA)SDGs常置委員会は、目標の達成を支援するために、本建築ガイド（英語版）を作成しました。私達は、このガイドブックによって建築環境と目標との関係を、選択した事例によって明示することに努力しました。これを通して、建築家や建築環境に関する当事者の皆さんが、掲げられた課題に積極的に取り組むきっかけとなることを期待します。



本書はSDGs計17の章立てで構成されています。そして、国連によるそれぞれの目標の理念を示した上で、各目標と建築環境との相互関係を概説し、既に成功裏に実現したグローバルなプロジェクトの具体的事例を掲載しました。その多くは一つ以上の目標に関連していますが、ここでの目的は個々の持続可能なプロジェクトの全体像を詳述することではなく、目標の課題に建築家と建築がどのように貢献できているかを考察することです。そして、そこからさらなる寄与に向かう議論を始めるための場と機会を提供することです。





この初版では、各目標につき多くがノルディック地域から選ばれた2~3事例を示しました。それらは私達にインスピレーションを与える注目のべきものですが、建築環境の目標達成への答えは、もちろんこれだけではありません。



従って、2020年に出版予定の第2版ではその範囲を拡大する予定で、編集委員会は収録されるべき多様で優れた事例の提案を歓迎します。そこでは、地域の気候、文化、課題に適用される数多くの新たな答えが求められ、理念としてだけでなく、世界の各地で実現し、実際に使われている建築環境の実態を知ることができるでしょう。



本書は建築環境の設計、プランニング、デザインの将来を担う建築の学生をはじめ、これからの課題に取り組むすべての行政、市民、専門家、組織のために作られました。それは地球を保全しつつ、社会のニーズに応えることに他なりません。

(本書イントロダクションより：編集委員会編集主幹/Natalie MOSSIN)



UIAのSDGs常置委員会は2017年9月に創設されました。それ以来委員である岩村は、本書を日本語版に翻訳・編集(資料1)し、その一覧表(資料2)を作成しました。今後の日本における活動を促進するために事例を収集・選択・分析し、掲載することがその目的です。そして、立体シンポジウム等の場を通して、この分野の持続可能な社会への貢献を支援したいと思います。



2019年1月 岩村和夫

東京都市大学 名誉教授

株式会社 岩村アトリエ 代表取締役

立体シンポジウム「環境と、すまい・まち」プロデューサー

An Architecture Guide to the UN 17 SDGs

